

随意契約結果及び契約の内容

業 務 の 名 称	瀬戸内海における周辺環境との調和を考慮した 生物共生型港湾構造物の検討手法に関する研究委託
業 務 概 要	計画準備 1式 周辺環境と調和した生物共生に資する港湾構造物の断面形状の検討手法の開発 1式 生物生息に関する効果の検証手法の開発 環境DNAによる生物空間分布推定のための調査手法の開発 1式 生物空間分布推定のための解析手法の開発 1式 協議・報告 3回 成果物 1式
契約担当官等の氏名並びにその所属する部の名称及び所在地	分任支出負担行為担当官 中国地方整備局広島港湾空港技術調査事務所長 嘉屋健二 国土交通省中国地方整備局広島港湾空港技術調査事務所 広島市南区宇品海岸3-10-28
契 約 年 月 日	令和2年7月14日
契 約 業 者 名	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所
契 約 業 者 の 住 所	神奈川県横須賀市長瀬3-1-1
契 約 金 額	9,969,300円(税込み)
予 定 価 格	9,969,411円(税込み)
随 意 契 約 に よ る こ と と し た 理 由	<p>環境に配慮した港湾構造物の配置・形状等の検討およびその効果の検証にあたっては、周辺の既存環境との調和が求められているものの、そのための具体的な方法は示されていない。</p> <p>こうした状況において、本業務は、周辺環境と調和した生物共生に資する港湾構造物の断面形状の検討手法および生物生息に関する効果の検証手法の開発を行うものである。</p> <p>業務の遂行にあたっては、アマモ場の生態系および生物多様性に係る研究実績を有し、また、既存観測施設より得られたデータを活用した内湾水質複合生態系モデルを用いた内湾水質環境シミュレーターを開発し、解析を行っていることが必要である。</p> <p>国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所は、瀬戸内海における周辺環境との調和を考慮した生物共生型港湾構造物の検討手法に関する研究の核となる内湾水質環境シミュレーターを基として、物質移動推定モデルを開発している。</p> <p>内湾水質環境シミュレーターは、他の内湾水質環境シミュレーターと比較して、流動場の3次元非静水圧モデル、微生物ループモデル、マルチGモデルを組み込んでいる点に特色があり、これを用いて行った、瀬戸内海における浅場修復の評価技術研究において貧酸素水塊の挙動や浮遊幼生の動態等の検討に有用な環境変動モデルの開発や、生息環境の違いに応じた生物の分布の把握や相補性の検討への応用の実績を有している。当該シミュレーターを基とした物質移動推定モデルは、アマモの種子や栄養塩等の拡がりや把握するものであり、当該シミュレーターの特色に基づいて高精度な物質移動の推定に応用できるものである。</p> <p>本業務を遂行するに必要な能力を有する者は、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所以外にも存在する可能性があることから、令和2年6月5日から令和2年6月25日までに本業務の業務受注希望者の公募を行った結果、上記の要件を満たす者が当該法人を除いて存在しないことが確認された。</p> <p>以上のことから、会計法第29条の3第4項(「契約の性質又は目的が競争を許さない場合」)、予決令第102条の4第3項の規定に基づき、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所と随意契約を締結するものである。</p>
業 務 場 所	広島港湾空港技術調査事務所指定の場所
業 種 区 分	建設コンサルタント等
履 行 期 間 (自)	令和2年7月14日
履 行 期 間 (至)	令和3年3月19日
備 考	